

特定非営利活動法人サロン 2002

《2015年4月 月例会報告》

NPO 法人化初年度の サロン 2002 共催事業を振り返る

—クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015 を中心に—

中塚義実(筑波大学附属高等学校/NPO 法人サロン 2002 理事長)

【日時】2015年4月28日(火) 19:15~21:00

【会場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室(東京都文京区大塚 1-9-1)

【演者】中塚義実(筑波大学附属高等学校/NPO 法人サロン 2002 理事長)

【参加者(会員・メンバー)4名】安藤裕一(筑波大学ハンドボール部 OB)、春日大樹(筑波大学大学院)、小池靖(サッカースポーツ少年団)、中塚義実(筑波大附高教諭)

【参加者(未会員)9名】田原淳子(国士舘大学)、皆川宥子(日本女子大)、内田裕之(自由学園教諭)、古里光(自由学園男子部2年)、小池胡楠(小池靖子息)、長野基(Peace Village 代表)、蛭名貴(Peace Village)、松岡耕白、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

【報告書作成者】皆川宥子

注)参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません(ご本人の了解が得られた方のみ公開しています)

<目次>

I.	法人化したサロン 2002 のすがた.....	3
II.	NPO 法人サロン 2002 の共催事業(2014 年度末)を振り返る.....	4
1.	賀川浩さんの FIFA 会長賞受賞記念講演会.....	4
2.	ユースフットサル選抜トーナメント 2015.....	5
3.	クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015.....	6
III.	クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム(国内 YF)の実際と今後の展望.....	10
1.	国内 YF 開催の経緯.....	10
2.	クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015(国内 YF)の実際.....	13
3.	国際ピエールドクーベルタンユースフォーラムへ向けて.....	18
1)	2015 年開催「第 10 回 国際 YF」へ向けて.....	18
2)	2021 年開催「第 13 回 国際 YF」の日本開催へ向けて.....	19

イントロダクション

15分遅れの19:15開始。月例会参加が初めての方が多く、また月例会史上初となる高校生が参加。ちなみに史上最年少ではない。赤ん坊が参加したことがある。

自己紹介

<中塚>

サロン2002の理事長を務める。筑波大学附属高等学校の保健体育科教諭として28年目。今回の月例会メインであるクーベルタン嘉納ユースフォーラムではコーディネーターとして参加。

<春日>

所属は筑波大学大学院1年。中塚先生は筑波大学蹴球部の大先輩にあたる。今年度よりサロン2002の事務局を担当し、このフォーラムではサロン2002事務局としてお手伝いをした。

<安藤>

サロン2002の理事で、会社に勤務する医師です。筑波大学ではハンドボール部で、中塚先生と同じアパートに住んでいた。このフォーラムには保健担当として参加。

<内田>

自由学園で教師をしている。中塚先生とは大学時代からの知り合い。今回のフォーラムも中塚先生より誘いを受け、チャレンジすることに。男子1名、女子1名が国際YFに参加することになった。

<松岡>

京都より参加。去年まで13年間立命館大学サッカー部のコーチングスタッフをし、今は大学院で国際関係の勉強をしている。関西ではオリンピックネタが皆無。

<長野>

国際問題をアートでつなぐ活動をしている。岸さんより紹介された。

<蛭名>

長野さんの団体でお世話になっている。

<古里>

自由学園男子部高校2年。クーベルタン-嘉納ユースフォーラムの参加者で、今夏にスロバキアで行われる国際フォーラムへの派遣者となった。

<皆川>

前回の国際ピエール・ド・クーベルタンYFに参加。大学2年。筑波大学附属高校卒業生。

<田原>

国士舘大学の体育学部に勤務。国際クーベルタン委員会、日本クーベルタン委員会に関わる。昨年1年間ドイツにて在外研究をしていたため、国内フォーラムには参加できなかった。

<小池父>

サロン2002にメンバー4年目。ナバセルさんがいらした時のアカデミーに参加し、オリンピックに関心を持つようになった。国内フォーラムには土曜日の朝1コマ、中塚先生の講義30分だけを聴くため参加。クーベルタンが西側、嘉納が東側で同じ時期に活動した話を聴き、自分たちでスポーツをやるのが学校教育において大事だということに共感した。2020年を機会にスポーツの本当の素晴らしさを広げられたらよいという思いを持ち、第1回国内フォーラムには歴史の証人として立ち会った。

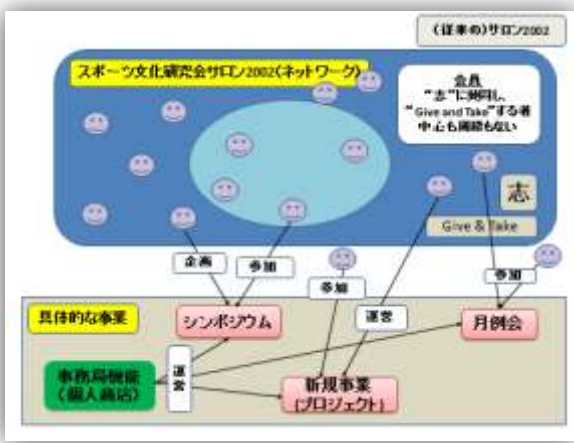
<小池息子>

高校3年。学校の海外派遣に申し込み、国際交流がどのようなものかを知りたく、参加。

報告会

中塚:このような感じでサロン 2002 では月例会を毎月行っている。月例会はざっくばらんな意見交換の場。オフレコ話も含め、どんどん出してほしい。最終的には報告書にまとめ、HP にアップする。その時点でこれはアップできないなどを参加者でチェックし、公にできるものとできないものを整理していきたい。

いよいよ中身に入る。おそらく多くの参加者がユースフォーラムの話を期待して来られているだろう。後半1時間以上をその話題に充てたいが、今日のメインタイトルは「NPO 法人サロン 2002 の共催事業(2014年度末)を振り返る」。月例会が初めての方が今日は大半なので、このネタを用意しておいてよかった。



そもそもこのネットワークは何なのか。

PowerPoint1 の、上のほうにあるゆるやかなところが、「スポーツ文化研究会サロン 2002」と言っていた部分。そのルーツは、80年代後半、私が筑波大学附属高校に赴任した頃からやっているゆるやかネットワークで、サッカーの研究者の集まりだった。当時、日本のサッカーにはプロリーグもなく、ワールドカップに出られるような状況でもなかった。サッカーが好きな人は好きだったが、残念ながらマイナースポーツでしかなかった。

PowerPoint 1

そこへプロリーグ発足や 2002 年のワールドカップに立候補するといった話が出てきて、このネットワークに、研究者以外のいろいろな人が顔を出すようになり、すごいことになっていった。その後、節目節目でこの組織のあり方を見直すような議論をしてきたが、“志”に賛同し、“give and take”の姿勢でしようとする人たちのネットワークであることには変わりがない。“志”にはこだわってきた。「サッカー・スポーツを通しての21世紀のゆたかなくらしづくり」と言いつながりを保ち、広がっていったネットワークである。任意団体にしては具体的な事業もよくやっていて、中でも月例会は、数えはじめた1997年から今日で通算224回目。さらに年1回、公開型のシンポジウムも開催している。

しかし事務局的なことをしてきたのが私と、ここ数年サポートしてくれている岸卓巨君だけであり、個人商店の形から脱皮できないままであった。「このままで良いのか」という話が上がり、いろんな経緯はあるが、最終的にNPO 法人サロン 2002 が誕生した。従来のネットワークを維持しつつ、具体的な事業に取り組む部分をNPO 法人化したということ。これにより従来のネットワークの良さを維持しながら、社会的に意味のある事業に積極的に取り組んでいける体制ができた。人手も多いわけではなく、依然として大変ではあるがおもしろい。

NPO 法人化当初から想定していた事業が、今日紹介する3つ。そのうちの1つがクーベルタン - 嘉納ユースフォーラムである。

I. 法人化したサロン 2002 のすがた

中塚:法人化初年度のサロンは、昨年の5月31日にここで設立総会を開いた。東京都に申請をし、さまざまな手続きを経て10月14日に認証、10月24日に東京都に登記された。それ以前は180人くらいのゆるやかなメンバーが全国にいたが、「なぜ法人化する必要があるのか」「中塚義実とゆかいな仲間たちでええやないか」との意見もあり、中には勘違いしている人もいて、何人かが外れていった。それでもネットワークのメンバーは約100人いて、うちNPO 会員、つまり意思決定に関わろうとい

う人も30人いる。依然としてネットワークが財産で、様々な分野の専門家がいるのがおもしろい。

月例会は毎月実施。ワールドカップ直前の6月にはキックオフイベントを行った。そして共催の形で事業の担い手になった。賀川浩さん関連イベント、ユースフットサル選抜トーナメント、ユースフォーラムである。

II. NPO 法人サロン 2002 の共催事業(2014 年度末)を振り返る

1. 賀川浩さんの FIFA 会長賞受賞記念講演会

(3/28 主催：神戸市)

中塚：賀川浩さんを知っていますか？

サッカー関係の人はもちろん、各局のニュースでも取り上げられていたので大勢の方がご存じだろう。90歳の現役ジャーナリスト。サロンでは名誉会員でなく、普通の会員。去年のブラジルワールドカップにセルジオ越後さんと一緒に行かれ、このワールドカップに来た世界中のジャーナリストの中で最高齢。当時89歳だった。そのことや、サッカーが日本でマイナーだった頃から取材をされていたことを、賀川さんと長い付き合いのある FIFA のブラッター会長が評価し、FIFA 会長賞を受賞した。

ちなみにこの賞を前回受賞した方は、IOC 前会長のジャック・ロゲ。他の受賞者には、例えばペレのようなビッグネームも名を連ねる。

知らせを聞いてびっくりした。日本人でこのような栄誉を頂ける、しかも我々のメンバーが受賞者になったというのは本当にすごいこと。賀川さんは神戸のご出身であるため、東京と神戸でパーティーと講演会をやることに。パーティーは私も発起人の一人。発起人代表はセルジオ越後さんで、神戸・東京いずれも200人くらい集う盛大なパーティーとなった。その他にもきちんと賀川さんの話を聴こうということで、東京・これはサロンの月例会として、それから神戸・これは賀川さんのライブラリーが神戸市立図書館にあるため、そこの主催で行った。



FIFA のパーティーに賀川さんはお呼ばれした。クリスチャード・ロナウドの隣の隣の席で、反対側にはミシェル・プラティニが座っている。ブラッター会長からトロフィーを受け、英語でスピーチをしているところが PowerPoint2。

神戸は日本のサッカーの発祥地の一つ。そこに賀川さんの蔵書が5,000冊あり、それをこの図書館に

PowerPoint 2

持ち寄り、賀川サッカー文庫ができています。いつもボランティアのおじいさんが何人かおられ、蔵書を整理されています。

PowerPoint3 は、賀川さんの神戸での講演会のワンシーン。オープニングで市立図書館の館長がご挨拶され、私は共催団体の理事長としてサロンのメンバーの賀川さんが選ばれてとても嬉しいという話をした。皆で受賞セレモニーの映像を観て、賀川さんにお話



PowerPoint 3

していただいた。神戸一中から現在に至るまでのサッカーの歴史の話である。

PowerPoint3の左下に写真がある。賀川さんはこれまであまりご自身の話はされてこなかったが、終戦70年ということもあるのだろう、戦争体験の話をしてくださった。賀川さんは特攻隊員だった。賀川さんの意識としては、飛行機に乗れるようになるためのトレーニングは2~3年かけてやるところを、3ヶ月くらいに濃縮してトレーニングした。その濃縮したトレーニング方法の中にサッカーのトレーニングに通じるものがあるといった話で、例えば「褒めて伸ばす」等がいっぱい入っていた。学徒出陣の年代は、賀川さんよりもう少し上の世代で、この人たちは第一線に即行かされる状況だったという。賀川さんたちは兵隊生活が半分他人事のような感じで飛行機乗りのトレーニングをされていたという話をされていた。



PowerPoint 4

おもしろいと思ったことがある。図書館は地域に根ざしているらしい。スポーツが地域に根ざすのと同じように、地域で何か地域のことを発信していけるよう神戸市立の図書館は取り組んでいる。

PowerPoint4の右の方は山形の図書館に勤めておられる方で、小池さんと同じようにお子さんを連れて参加されていた。Jクラブがある地域同士で図書館ネットワークのようなものやっており、その一環で神戸まで来られたとのこと。ナビスコップ、神戸 vs 山形の試合がこの後夕方から神戸のスタジアムであり、その応援で山形から来ていた。

2. ユースフットサル選抜トーナメント 2015

(3/24~25 主催：一般財団法人日本フットサル連盟)

中塚：一般にはあまり知られていないが、高校生年代のフットサルはサロンのネットワークから始まったと言っても過言ではない。詳しくは省略するが、2001年から他県に先駆け、東京都ではサッカー協会の事業として高校生年代の大会を始めていた。それが徐々に広がり、去年から（公財）日本サッカー協会(JFA)主催の全国大会に繋がった。そのプロセスで、サロンのネットワークの人々がいろいろな場所で活躍や暗躍している。



PowerPoint 5

去年できた全日本ユース(U-18)フットサル大会は単独チームの日本一を決める大会。普段サッカーをしている人も、このときはフットサルチームを編成して出場する。8月に行われる。

それはそれでよいのだが、もう一方で、フットサルをしている人たちにとっての良いシーズンがあり、それは3月。実は過去3回ほど、3月にプレ大会として全国大会を行っていたのだが、それが8月に移ってしまい、3月が空白のところだった。それを改善するため、一般財団法人日本フットサル連盟(JFF)主催、共催サロン2002で大会を企画した。JFA主催の全国大会との差別化が必要のため、JFAの方は単独チームの競技会、サロンがJFFとともにやる

方は地域で選んだチームやプレーヤーによる選抜トーナメントにした。

PowerPoint5 が出場チーム一覧。例えば A グループの八戸工業大学第一高校は東北代表。東北では予選をやったわけではない。東北で選ばれた。地域で選ばれたのならそれでよい。どういう経緯で選ばれたかという、この大会は 3 月 24・25 日開催で、青森県、あるいは東北地方の公立高校は 3 月 26 日が終業式。よって公立はこの時期には出られない。そこで私立の学校で出られるところはないかと探していたら、この学校がたまたま東京遠征を予定していて、その話を耳にした東北フットサル連盟がこの大会への参加を促した。このような緩やかな様子でスタート。ちなみに関東第一代表、A グループ 4 に FOOTBOZE FUTSAL があるが、これは東京の三鷹のあたりで活動しているフットサルクラブ。幼稚園から大人のカテゴリーまでいる。それから関東第二代表、B グループ 3 の鹿島学園高校はサッカー部。関東では予選をやったこの 2 チームが上がってきた。さらに開催地枠として C グループに東京都ユースリーグ選抜がある。これは開催地東京の U-18 リーグ選抜チームである。

準決勝は東京対決。すごく盛り上がった。平日ではあったがユースリーグの高校生を始め、かなりたくさんのギャラリーが来てくれた。FOOTBOZE の保護者も大勢集まり、良い試合だった。反対側風呂奥の準決勝は愛知 vs 大分。決勝戦は愛知県選抜に東京が負けてしまうのだが、この愛知県選抜は、F リーグでずっと連覇を続けているフットサルのプロチーム、名古屋オーシャンズのユースチームで構成されている。1 人だけ別のチームから加わった選抜チームであると聞いている。大会は錦糸町にある墨田区総合体育館で開かれ、決勝のキックオフが 16 時 40 分。18 時 30 分くらいに終わった。

その後、錦糸町駅の反対側に行き、行きつけの「フットボールサロン 4-4-2」というサッカーバーで賀川さんの講演会。これを 3 月の月例会として行った。

90 歳にもなる賀川さんのスケジュールは驚異的。3 月 25 日にフットサル大会を観に来られ、その晩はサロンの月例会で講演していただき、26 日に神戸へ戻る。27 日には大分で日本代表の試合があって取材に行かれ、28 日の朝いちの新幹線で神戸へ戻り、先ほどの神戸図書館での講演会に臨まれた。NPO サロン理事の本多克己さんが賀川さんのスケジュール管理をされているが、取材等をかなりお断りしてもなおこのようなスケジュールになる。賀川さんはびんびんして過ごしているのがすごい。

3. クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015

(3/13~15 主催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム=CORE)

中塚：まず背景から。国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムという、高校生が世界中から集まってオリピズムを学習する場が 1997 年から 2 年おきに開かれている。第 6 回のチェコのターボルで開かれたところから田原淳子さんが参加され日本に紹介。そして 2009 年、日本が初参加。その当時は 2016 年のオリンピック誘致を東京都がしていて、この話を東京都に持って行ったところ、都立国際高校から 2 人参加した。その 2 年後の 2011 年は初のアジア開催。

ちょうどこの頃から、筑波大学がオリンピック教育を一つの大きな柱に位置付けた。嘉納治五郎生誕 150 年を機に、2010 年に筑波大学オリンピック教育プラットフォーム (CORE) という組織ができ、附属学校も含めてオリンピック教育を始めるというタイミングで、田原さんがこの国際フォーラム第 8 回大会の話を持ちかけてくださった。このあたりの補足を田原さんに。

田原：このときは阿部生雄先生が筑波大学附属学校の教育長をされていて、話を持ち掛けやすかった。

中塚：阿部先生はスポーツ史の先生で、筑波大学附属中でも長らく校長を務められた方。日本オリンピックアカデミー(JOA)の会員でもある。

その第 8 回大会は北京四中が主催。フォーラムの際に北京市内をジョギングすると、北京百何十中学というのがある。このことから、第四中学というのは相当古い学校だということが想像できる。

アジアで唯一のクーベルタンスクールで、北京オリンピックの時になったと聞いている。私も引率として初めて参加。本校からはダンス部の山西、テニス部の星野とい2名の女子が参加し、活躍した。

オブザーバースクールとしてオリンピック教育がどのようになされているのかを見てくるのが私の使命。行って見て、オリンピック教育がどういうものなのかが何となく理解できた。それはクーベルタンアワードで求められているものからある程度見えてくるし、プログラム全体を通して、事あるごとにオリビズムに関わるメッセージが述べられる。例えばクロスカントリーでは支え合い・助け合いが称賛される。へとへとになってゴールインする子を他の国の子が応援しながら盛り上げる。また、マナーに関する指導では、ヨーロッパ人と中国あるいは東アジアの我々との感覚が少し違う。例えば北京四中の寮に泊まったのだが、そこは男子のフロアと女子のフロアが完全に分かれている。これは東アジアにはよくあるパターンだが、欧米の人たちはそれを平気で行き来する。北京四中の校長先生からお叱りを受けたということを教師の緊急ミーティングで共有し、郷に入れば郷に従え、中国の文化をきちんとリスペクトしようということ saying していた。「リスペクト」という、オリンピックの価値にも挙げられている言葉はいろいろな場面で出てくる。こういうところでもオリンピック教育のなかみを感じた。

クーベルタン賞の獲得を目指して世界中から集まってきた高校生。せっかく集まったのだから皆に与えられるのかと思いきや、そうではない。3割くらいの子がもらえていないのが、クロージングセレモニーで見える。クーベルタン賞をもらった子はメダルを下げ、そうでない子もいる。エクセレンス・卓越性を求め、それに向かって努力するすがたが強調されている。これもオリンピックの価値の一つである。

また、それぞれの国の様子、現状がわかった。ヨーロッパ主導でオリンピック教育が展開されていることは、例えば筆記テストでギリシャの都市名やギリシャの神様の名前を英語で書かないといけない問題がある。日本にも神話はある。けどここで問われているのはギリシャの神話。ヨーロッパ主導のオリンピック教育では、ギリシャのことを過剰にリスペクトする内容だったと感じた。そのわりにギリシャからの参加者は態度が悪く、ドイツの会長からは目をつけられていた。

これらのことを踏まえた日本の現状を考えたときに、「オリンピック教育」と改めて唱える必要があるのかということを感じた。つまり、これらは日本で既にやっているということである。例えば、日本の体育の授業や部活動でやっているのは、体を強くしたり技術を高めたりすることだけでなく、トータルな人間の育成である。これはまさしくオリンピック教育なのではないか。しかし抜け落ちているところもある。歴史や理念についての教育は不十分。日本の神話は戦後の教育でまったく触れら

れなくなった。そこまで遡らなくても、例えば近代スポーツ導入期における先駆者の思想と功績、特に嘉納治五郎の遺産についての学習はすっぽり抜け落ちている。このような学習を、オリンピック・パラリンピックをめぐる教育としてやっていく必要があると思った。ヨーロッパ中心のオリンピック教育から、ローカルを兼ね備えたグローバルなオリンピック教育をと感じたものである。

2年後の会場はノルウェーのリレハンメル。冬のオリンピックをやったところで、ユースオリンピックも開催される。そこが会場となり、2013年8月に行った。ここに皆川さんが参加、3年生で受験を控えていたが、それよりもこち

主なプログラム

- ◆クーベルタン賞に関する活動◆
 - 1) 知識テスト ... オリンピック、オリビズムについての講義とテスト
 - 2) スポーツテスト ... 必修: 射撃・テニスと加算カントリー
選択: 100m走・走幅跳・砲丸投・水泳から3種目
 - 3) 社会貢献活動 ... 事前に行う、地域のボランティア活動
 - 4) アートパフォーマンス ... 7分以内のパフォーマンス
 - 5) グループディスカッション ... オリビズムについての討論
- ◆ノルウェーの自然や文化に親しむ活動◆
 - 1) ノルウェーの自然や文化、国立公園でカヌー、野外バーベキュー等
 - 2) ウィンタースポーツの体験 ... カーリング、ボブスレー等
- ◆文化交流活動◆
 - 1) ミニエキスポ ... 各国のブースを回って交流
 - 2) リレハンメル市民に対するパフォーマンス ... ダンスなど

PowerPoint 6

らを優先した。もう一人の参加者の加納時定君も剣道部所属。加納君はユースフォーラムが終わったら剣道部の合宿に参加していた。

この大会も日本はオブザーバースクールであったため派遣生徒は2名。他の国は各校7名ずつが基本の形となっている。

主なプログラムとして、クーベルタン賞に関する活動として知識テスト。もちろん全部英語もしくはフランス語。どっちが良い？

古里：英語。

中塚：それからスポーツテスト。このときはオリエンテーリングとクロスカントリーが必修で、選択として PowerPoint6 のようなものがあった。皆川はどれを選んだ？

皆川：100m 走と走幅跳、砲丸投。

中塚：加納は水泳を選んだよね？

皆川：その代わり砲丸投を選ばなかった。

中塚：社会貢献活動。これは行く前にそれぞれの国でやっておき、校長先生のお墨付きをもらって、「私はこんなことをやった」という証明書を提出する。これ皆川は何をやった？

皆川：地元の農家に行って、雑草抜きや野菜の収穫を手伝った。

中塚：加納君は谷津干潟の清掃ボランティアに行っていた。

アートパフォーマンスというのは、準備に手間暇がかかる。それぞれの国の身体文化やスポーツ、オリンピック・パラリンピックとの関わりをドラマ仕立てやダンス系などにし、7人のチームが7分間パフォーマンスを作ってくる。このときはオブザーバースクールで7分のパフォーマンスは求められなかったが、ミニエキスポにてパフォーマンスの時間があった。皆川・加納は何をやった？

皆川：日本剣道形をやった。

中塚：評判はどうだった？

皆川：欧米の国はダンスやアクロバティックなものが多かったが、自分たちの国だけ静寂を保ち、ガラッと違う雰囲気を作れた。

中塚：あれは大変だった。刀（模擬刀）を飛行機に乗せて向こうまで持って行かないといけなかったが、成田空港で話を通してくれてうまくいった。

それからグループディスカッション、オリンピズムについて。このときのテーマは環境だった？

皆川：“持続可能な”

中塚：事前にポスターを作り、それが会場に掲示される。それ以外に3回ディスカッションの時間が

設けられていた。どんなテーマだったか？

皆川：自国で取り組んでいる持続可能な環境づくりとオリンピックのつながり。例えばキリバスは国内に山が一つしかないことや、日本ほどインフラ整備が進んだ国はないことを聞いた。

中塚：その後、そのディスカッションの中身を誰かがまとめてプレゼンする？

皆川：プレゼンはしなかった。

中塚：紙に書いて提出するだけか。ディスカッションのグループ構成は？

皆川：2つの部屋のメンバーが合体し7、8人。

中塚：powapoint6 がクーベルタンアワードに関する活動で、毎回このような感じ。つまりこれらがオリンピック教育の中身として求められているのだろう。それと、毎回いろいろな国に行くため、行った先の自然や文化に親しむ活動がある。ノルウェーは木が豊富で、すごく気持ちの良いところだった。国立公園に行く機会もあったし、ウィンタースポーツを体験することもでき、非常に楽しかった。

それからいろいろな国の交流の場として文化交流活動、ミニエキスポが、北京大会から始まっている。各国1テーブルくらいのところにそれぞれの国を紹介する何かを置いて、ちょっとしたお祭りをやる。前は各国から来た参加者相互の交流だけでなく、リレハンメル市民に対しても「こんな人々が今リレハンメルに来ている」というパフォーマンスを披露する時間もあった。皆川・加納はそこでも剣道の日本形を披露し、リレハンメル市民を静かにさせた。

クーベルタンスクールのネットワークの人々が参加するわけで、例えばグレートブリテンのウィリアム・ブルックススクール・マッチウエンロックは、クーベルタンが近代オリンピックを復興させる1つのヒントを得たという、ウエンロックオリンピックをやったところ。その医者の名前を取った学校で、すごく誇り高いイギリス人たちだった。「オリンピックは俺たちの街で始まった」という冊子を配っていた。だいたい単独校だが、オーストラリアは異なり、これを今回の日本が1つのヒントにしている。州ごとにクーベルタンアワードを得るためのフォーラムをやり、その代表がこの国際ユースフォーラムに来る仕組み。

オブザーバースクールとして日本、ケニア、マレーシア、モーリシャスが2人ずつ参加。や



PowerPoint 7



PowerPoint 8

はり7人組は一大勢力になるが、2人組が少しずつ集まり、ここが仲良くなるパターン。

何か質問・補足は？

皆川：先ほどのディスカッションのグループについて。部屋がペンションになっていて、違う国の人々が4人くらいずつ共同生活をしていた。そのルームメイトでグループ討議をした。

松岡：PowerPoint9で中央にオリンピックの五輪旗が出ているが、いくつか去年の報告書を読むとオリンピックという用語を使わないというコメントもあった。ここでオリンピックの旗が出てくると、IOCとの関係が気になる。全く関係ないのか？

田原：いえ、非常に密接な関係。国際クーベルタン委員会の予算はほとんどがIOCからの助成金で運営されている。国際クーベルタンユースフォーラムは隔年で行われていて、このようなイベントがあるときは、それに応じた額の補助をIOCから受けている。そして閉会式の時には毎回IOCの会長のメッセージが代読される。クーベルタン家の方が国際委員会の役員をされており、国際ユースフォーラムにも参加している。

松岡：オリンピズムを広めていく方法としてIOCはユースオリンピックをやり、それ以外のところでこのような取り組みをしている？

田原：IOCにとってはクーベルタンの思想は一つの精神的な支柱であり、クーベルタンの思想や人物を研究したり教育したりする国際クーベルタン委員会は非常に貴重な組織であるということによって評価を受けている。



PowerPoint 9

Ⅲ. クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム（国内 YF）の実際と今後の展望

4. 国内 YF 開催の経緯

中塚：2011年の時は「オリンピック教育とはどんなことをするのか」という思いで行ったが、2013年は一歩踏み込んで、「日本で何ができるか」を考えた。おそらくクーベルタン委員会としてはクーベルタンスクールを増やしたいのだろうが、例えば筑波大学附属高校の名前にピエール・ド・クーベルタンをつけることは考えられない。嘉納治五郎スクールになるのはまだ良いが。歴史と伝統のある学校には難しく馴染まないと感じた。そもそも人物名を学校名とするのは日本の習慣に合わないのか。例えば先ほどのウィリアム・ブルックススクールのようなものはないのかと考えたが、“津田塾”や“十文字”があった。ケニアの学校は“キップケイノ・スクール”。ケニア人アスリートの名前がついている。ケニアの先生いわく、ヨーロッパの人の名前をアフリカの学校につけるのは、アフリカの側からするとあり得ない。なぜならヨーロッパに支配されてきた歴史があるから。ヨーロッパ人の名前を学校名に付けるハードルを彼も感じており、自分たちがクーベルタンを名乗るのはあり得ないとのこと。

しかし、嘉納治五郎とも一致するクーベルタンの思想は広めていきたい。クーベルタンスクールになる以外の方法で何かないかと考え、国内向けのフォーラム開催に繋がった。オーストラリア型の、

国内の高校生を対象にオリンピズムを伝える場の設置である。

もう一つ思ったのが、日本人の可能性と課題ということで、どうしても相対的にシャイな感じを受ける。英語が得意でないからというのもあるだろうが、それだけでない気がする。同じ日本人同士でも初対面の人に対して他の国の人と比べてシャイなのでは、と。そもそも高校生にとって、他校の高校生と話をする機会があるのかということも考えた。例えばサッカーの練習試合をする、大会で会う。けどたいていは試合をして終わり。筑附のサッカー部と神奈川の湘南高校のように定期戦をしているところは交流会があるだろうが、これはレアケース。他校の高校生と腹を割って話す機会をもっと作るべきだと感じた。それを2015年の春にやろうということになった。

いま言ったことを高校生諸君はどう捉える？つまり今日たまたま、普通では出会わない高校生（小池・古里）がここで出会っている。このような機会はある？

小池息子：年2回の部活の交流のみ。山岳部の大会で山に登ることはあるがそれ以外はない。

中塚：他校の子と一緒にチームを作って登る？

小池息子：行動はまとまって行く。

国内ユースフォーラム開催まで①

■どこが担い手となるか？

- ・JOAクーベルタン部門？ CORE？ JOC？ 嘉納治五郎センター？
- ・サロン2002の立ち位置は？
- ・7月30日 CORE運営委員会で議論
- 「CORE主催でなければ協力は難しい」とのこと → CORE主催で

■いつ、どこで、何を行うか？

- ・当初は2014年8月に懇話会開催を目指していた
- 筑波大学附属高校の桐蔭寮 または 中京大学研修所
- but調整がうまくいかず、仕切り直し
- ・2015年3月13～15なら日程的にはOK。筑波大学で開催！

↓

主催CORE、共催NPO法人サロン2002の形ができる

PowerPoint 10

国内ユースフォーラム開催まで②

■誰に、いつ、声をかけるか？

- ・9月9日の時点での参加者の想定は「高校生30名程度(筑波大学附属高校10名、中京大学附属高校10名、その他10名?)」
- ・2014年10月3日 筑波大学附属高校の全校集会で告知
- 11名が意思表示 → 10名が残る(国内7ヶ所に1名インフルエンザで欠席)
- ・10月8日のNPOサロン2002理事会の際、帝京高校・嶋崎氏に打診
- ・11月9日のサッカー練習試合のあと、自由学園・内田氏に打診
- ・11月11日の筑波大学附属学校オリンピック教育推進専門委員会後に筑駒(横尾氏)と筑東(渡会氏)に打診 → いずれも前向きな回答
- ・11月28日 学習院高等科・女子高等科に打診。12月1日以降、学習院女子大の柴井啓子氏(JOA専務理事)からもアプローチ → 嬉しいとの回答
- ・このころ、東京都教育委員会・黒尾氏に可能性を打診
- 予算化されていないので難しいが今後は期待
- 都立東高校長(全国高体連研究部長)に打診(12月4日、高立連研究大会)
- 注)中京大附属(栗田氏)からは仕切り直し後、音沙汰なし。1月13日に栗田氏が高校生に講演。その後募集し、2月になってから5名の参加申請があった。

PowerPoint 11

古里：自由学園は基本的に部活の試合以外では、ほとんどの生徒が寮生のため、あまり外部との関わりがない。それに加え電子機器がほぼ禁止されているため、情報も入ってこない。自発的に教師に提案をしてそこでコミュニケーションが取れることはある。

中塚：皆川さんはどう思う？

皆川：シャイ。どんどん話しかけられた。初めてペンションに行くと、日本人が来たということでアニメの話など質問攻めだった。自分は全然知ら

なかったため、もっと勉強しておくべきだったと感じたほど。漫画を始めとした現代カルチャーについて、日本人よりよく知っていた。

中塚：ということで、具体的にやることに決まり、ちょうど去年のいまごろから準備を開始した。ただどこが担い手になるのかがとても難しい。JOAでもこのようなことをやりたかったはずで、担い手の一つにはなれる。そしてCORE(筑波大オリンピック教育プラットフォーム)やJOC、嘉納治五郎センターともうまく組んでやれたらいい。

NPOとなったサロン2002の立ち位置も重要である。2014年7月30日のCORE運営委員会で議

論してもらい、CORE主催で実施することとなった。

はじめ2014年の夏休みにやる予定だった。というのも、春休みに実施してそこで国際 YF 派遣生徒を決めるということになると、国際 YF までの準備期間が短すぎる。例えば皆川が行ったときは、前年の10~11月には派遣は決まっていた、そこから事前学習を進めていた。3月から数か月で準備するのは大変である。そこで8月開催で考えていた。

PowerPoint10には蓼科開催という案が示されているが、ここには桐陰寮という、筑波大学附属高校がクラス合宿で使っている築80年の古い寮があり、自然も豊かで実に良い。中京大学も蓼科に研修所を持っているのでJOA会員の来田さんと調整していたが、話が進まないまま時間が経過し仕切り直し。改めて3月13~15日に筑波大で行うことになった。そこなら私もあいているし、CORE事務局の真田先生もあいているとのことだったのでまずは日程を決めた。後に真田先生は海外出張が入ってしまい、この期間は不在であった。

次に「誰に、いつ、声をかけるか」が問題になった。PowerPoint11にその経過が示してある。筑附の10名が決定した後周りの人々に順番に声をかけていった。

嶋崎先生はオリンピック教育を、帝京高校の総合的な学習の時間で展開されている。そこで声をかけると国際コースの先生に話をしてくれて、とんとん拍子に話が進んだ。

内田先生には、ちょうどここでやったサッカーの練習試合後に話をした。最初の印象は？

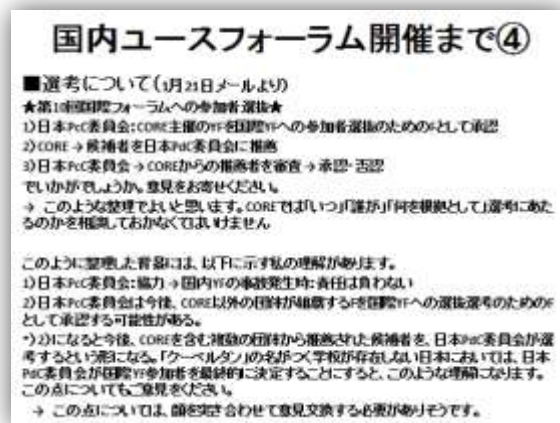
内田：先ほど古里君が言ったように、あまり外に出ていく機会がない学校のため、良い機会。それも世界に出ていく。他校の生徒とやりとりすることも良い刺激になるだろうと思った。寮生活だとわりと皆で話し合う機会が多いため、中塚先生から「ここでうまくいくパーソナリティーを持った子がいるのではないか」とのこと。これもあってチャレンジすることにした。

中塚：そして筑波大学の附属学校にも同じように声をかけた。実はこのような動きをする前に、本校がSGH、スーパーグローバルハイスクールになり、その幹事校になった。そこでSGHのネットワークで声をかけようかとも考えた。SGHの一つである浦和高校はどうだろうかという話もあった。しかしSGHのネットワークで広げるなら全国に広げないと不公平になり難しい。今回は、初の試みであり、直接声をかけられる範囲で試験的にやってみようということで落ち着いた。

学習院は、うちの学校と嘉納治五郎の頃からご縁があり、定期戦をずっとやっていることから声をかけた。ちょうど11月30日に学習院大学にいるJOA専務理事の荒井啓子さんと話す機会があり、学習院内にも話してもらったが、「試験とかぶっており難しい」との回答だった。

一方、東京都も2020年に向けオリンピック教育を一生懸命やっている。その担当官が、かつて東京教員サッカークラブと一緒にプレーした仲間の黒子茂さんである。声をかけてみたが、年度途中でもあり「難しい」とのこと。全国高体連研究部長を務める都立東高校の野口校長にもピンポイントでアタックしてみたが駄目だった。

名称をどうするか問題もある。結論として、英語表記と少し異なるが「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2015」、英語では“Jigoro Kano Memorial Japan Pierre de Coubertin Youth Forum 2015”に落ち着いた。いろいろ



PowerPoint 12

な思惑がここに込められている。

どのように選考するかの問題。やり方として PowerPoint12 のように日本ピエール・ド・クーベルタン委員会が関わる。これは日本ピエールド・クーベルタン委員会の和田会長からのメールに、矢印部分が私の付け加えたところ。選考については各引率の先生からもご意見くださいとのことで展開した次第。

ここまでで何か質問は？

長野：嘉納先生は柔道の方？その方とクーベルタンの繋がりがわからない。

中塚：オリンピック・ムーブメントを世界に広げようとしたとき、アジア・日本にも広めたかった。そのころに日本では誰が携わるかと言ったときに、高等師範の校長であり、柔道を創始した嘉納治五郎となった。そして嘉納治五郎がアジアで最初の IOC 委員になる。派遣母体である JOC と日本体育協会（当時是一个の組織）を創った。柔道の嘉納と一般には思われているかもしれないが、調べれば調べるほどいろいろな側面があり、やはり教育者。

5. クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015(国内 YF)の実際

中塚：ここから写真・映像を多用したい。手元の資料に実施要項があり、プログラムとスケジュール概要が載っている。（以下、配布資料より引用。一部改編）

【プログラムとスケジュール概要】

◆3月13日（金）

12:00~12:30 受付

12:30~13:30 ガイダンスおよび参加校紹介^{注4)} → 「野性の森」へ移動

14:00~20:00 野外活動・飯盒炊爨^{注5)} → 研修センターへ移動（徒歩）

23:00 消灯

◆3月14日（土）

6:30 起床・体操^{注6)}

7:15 朝食 → 8:00 ごろ出発して筑波大学へ移動（徒歩約20分）

8:30~9:00 講義①国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムとは^{注7)}

9:00~10:00 講義② 嘉納治五郎^{注8)}

10:00~11:30 学内研修^{注9)}

11:30~12:30 講義③ クーベルタン^{注10)}

12:30~13:30 昼食・休憩

14:00~17:00 スポーツテスト^{注11)}（於陸上競技場）、クロスカントリー^{注12)} → 研修センターへ

18:30 夕食

19:30~21:30 オリンピズムについての討議^{注13)}

23:00 消灯

◆3月15日（日）

6:30 起床・体操^{注6)}

7:15 朝食 → 8:30 ごろ出発して筑波大学へ移動（徒歩約20分）

9:00~10:00 筆記テスト^{注14)}

10:30~12:00 総括・閉会式（終了後、解散）

【経費（高校生一人当たりの概算）】

・研修センター宿泊費	7,400円	=	1泊3,700円	×	2泊
・同 食 費	1,800円	=	朝食500円	×	2回 + 夕食800円
・保険代その他	800円				
計	10,000円				注15)

<注一覧>

注1) 2015年8月29日～9月5日、スロバキアで開催。日本から高校生7名と引率教員1名が参加

注2) 受付・講義は筑波大学体育専門学群棟5C513。この他「野性の森」「陸上競技場」などを利用

注3) 一般財団法人 筑波学都資金財団 筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5 Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886

注4) 各校5分程度のプレゼンテーションを行う（事前にパワーポイント等で準備しておく）

注5) 筑波大学野外運動研究室の指導でA.S.E. (Action Socialization Experience) などを行う

注6) NHK ラジオ放送に合わせて「ラジオ体操」を行う

注7) 演者は中塚義実（筑波大学附属高校教諭／CORE運営委員／NPO法人サロン2002理事長）

注8) 演者は藤堂良明（筑波大学教授／前筑波大学附属中学校長）

注9) 筑波大学の体育施設や、体育系ギャラリー・大学会館の展示等をグループごとに見学

注10) 演者は來田享子（中京大学／日本オリンピックアカデミー）

注11) 全員必修で、100m走、走幅跳、砲丸投を行う。砲丸は男子4kg、女子2.7kgを用いる

注12) 全員必修で、学内周回コース（約3km）を走る

注13) 5つのグループに分かれ、オリンピズムに関連するテーマについて英語で討議・まとめ

注14) オリンピック・ムーブメントやオリンピズム、あるいはオリンピック・パラリンピック競技会についてのテスト。出題はJOA

注15) 交通費は各自（または各校）で負担。このほかの経費はCOREが負担

中塚：せっかくなので自由学園の学校紹介を。（映像を流す）

古里君は何もしゃべらなかつた？

古里：そう。原稿とスライドは僕が進め、彼が読みたいとのことだった。

中塚：これはいつ準備した？

古里：冬休み直前に声をかけられ、学園の中で選考をするはずで書類を提出したが、冬休み後に全員行くことが決まった。それまで女子部と男子部が離れており、顔合わせることがなかったので、3回ほどミーティングをした。男子部が主に内容を考え、写真提供を女子部からしてもらい、行きの中でのまとめ。

中塚：すごい。大したものだ。これが最初のガイダンスおよび参加校紹介。これはおもしろかった。

古里：はい。特に筑波大学の附属系の生徒がすごく盛り上げてくれた。最初の振り出しが良かった。

中塚：筑附は歌を歌っていた。どの学校も校風・校訓に自由だったり自主だったりがあり、おもしろかった。よくよく考えてみると校訓に掲げられている言葉はオリンピズム。そういった意味ではオリ

ンピック教育と改めて言わなくても、普通の教育のことを指すと感じた。

このあと参加者は「野生の森」に行く。ちょうど僕らが学生のころにできた施設で筑波大の中にあり、PowerPoint13のような活動をした。PowerPoint13 右上は何をしているかという、風船やボールを投げてグループでキャッチする遊び。グループ作りの一環。



PowerPoint13 右上は何をしているかという、風船やボールを投げてグループでキャッチする遊び。グループ作りの一環。

PowerPoint13 左上は丸太の上で、例えば誕生日順に並び変わるゲーム。

PowerPoint13 右下は？

古里：これは小さな切り株の上に全員が地面から足を離して乗る遊び。

中塚：PowerPoint13 左下は？

PowerPoint 13

古里：僕たちはやっていない。

中塚：これは確か紐に触れないようにして、全員が中から外に出るゲーム。このようにいろいろなことをやりながら、初めて出会った人たちとグループ作りをして行こうという取り組み。こういうノウハウを野外の人たちはたくさん持っているため、一気に打ち解けた。



さらに飯盒炊爨として、グループごとにメニューが与えられた。君らは何をやった？

古里：僕らはコーンスープとクラムチャウダー。

中塚：そして PowerPoint14 左下が教員チームの課題。おいしいピザを作った。

夜になり、皆で最初の食事をしたのが初日。初日はこれで終わり、早歩きで 15 分かかかる研修センターが宿となった。その後研修センターと大学の行き来は歩きですることになる。その日の晩はすぐ寝た？

PowerPoint 14

古里：部屋で何人が集まって軽くおしゃべりをした。すごいところは 12 時くらいまで起きていたみたい。僕は早く寝た。

中塚：11 時消灯。ちなみに春日さんはずっと会場ボランティアということだったが、どこから参加した？

春日：昼間抜けてしまい、オリエンテーリングをやっているのは知らない。ご飯がもう間もなく出来る頃に着し、申し訳程度にお肉を焼き、ご飯を食べた。初日はほとんど仕事をせずに、かなり良い思いをした。

中塚：安藤ドクターはここで仕事が出た？

安藤：飯盒炊爨の薪割りでとげが刺さったり、気分が悪くなる子がいたりして、その子たちの体調をみたりあるいは病院へ連れて行ったりした。

中塚：ドクターがいてくれてすごく助かった。

翌朝はラジオ体操からスタート。6:30の通常放送のラジオ体操。朝食の後に8:30から30分講義。これが小池さんが自己紹介で言われたもの。その後は嘉納治五郎についての話を、武道論がご専門の藤堂先生にいただいた。

次に学内研修。筑波大学の学生会館前に嘉納治五郎像があり、全員で集合写真(PowerPoint15)を撮った。誰が誰だかわかる？



PowerPoint 15

古里：全員の名前は覚えていない。

春日：どこにいるの？

古里：僕、顔が隠れていて...

中塚：かなり残念な写真。これは次回に向けての教訓だが、僕らも顔と名前がわからない。だから生徒の顔写真付きのリストが必要だった。国際ユースフォーラムの時は国ごとに名前が入ったものを作る？



PowerPoint 16

皆川：配られた。

中塚：それがあったほうがいい。

PowerPoint16は筑波大学の体芸棟の一角だが、そこにもいろいろ展示されている。学内研修の時間を使い、たくさん回れておもしろかったのでは？

古里：筑波大学の図書館に行くなど、いろいろ見ることができた。

中塚：その次がクーベルタンの講義だった。当初は和田浩一さんの予定だったが、事情で来られなくなり、來田さんが代わりに話してくれた。この講義の思い出は？

古里：学校では保健体育等でオリンピックについては少しだけ触れていたが、それ以外はほとんど触れておらず、オリンピックと嘉納治五郎先生の話は知らなかった。オリンピックが日本にどのように浸透したかという歴史的な背景を学べて良かった。

次のオリンピックの講義でもオリンピックと平和の関係性の価値観にハッとさせられた。

中塚：クーベルタンの講義が終わってから昼食。それぞれで食べてくるようにという形にしたが失敗だった。

春日：一軒の店に集中してしまった。

中塚：土曜日で学食が休みだった。どこで食べた？

古里：ドルフ？

春日：僕がどこに行けばよいか困っていた子がたくさんいた中で、一番近いレストランを紹介したら、皆がそこに集中してしまった。

中塚：それで午後の集合が少し遅れてしまったが、いよいよスポーツテスト。ウォーミングアップではゲームを交えながら体をほぐしている。国際ユースフォーラムでは大体砲丸投が課されていたため、今回も砲丸投を必修にした。走投跳ということで走幅跳、砲丸投、始め 100m 走と言っていたものを 50m 走に変えて実施した。皆のパフォーマンスはどうだった？

古里：お恥ずかしいが自分はスポーツができないため、皆本当に素晴らしかった。感心しながら少しでも吸収しようと試みたが、なかなかできなかった。しかし近くの人と手をつなぎながら一緒に走るなど、協調性を図ることでまた打ち解けられた。

中塚：やはりスポーツテストで目立っていたのは中京大附属のスポーツクラスの子たち？

春日：すごく速かった。データの集計をしたがパンッと 2 人飛び抜けていた。女の子でも陸上部のキャプテンの子は速かった。速い順に並べると中京ばかり。

中塚：14日は朝からかなりハードで、講義ありスポーツテストあり、少なくとも体が大変だったが夜 7:30 から約 2 時間、オリンピズムについての討議の時間があつた。説明を。

古里：この討議は全体で 2 時間半あり、2 時間の間は英語で討議をする形で、最後の 30 分で振り返りとまとめをした。最初にグループ分けで各校が散らばるよう、5 つのグループに分かれた。テーマが 2020 年のオリンピック・パラリンピックについての課題。自分のグループでは主にオリンピックについて話、環境のことや外国人観光客の対処方法を話し合った。



PowerPoint 17

中塚：PowerPoint17の紙には何が書かれている？

古里：主に何が問題なのかということポストイットで貼った。それに対しての解決法を皆で話し合いながら、「どういうアプローチができて、どういう問題がコネクトするか」を話した。

中塚：古里君は英語があまり苦にならない？

古里：インターナショナルスクールのサマースクールに通っていたため、そこまで英語には抵抗がない。

PowerPoint17には映っていないが、右端にはスポーツテストですごい成績を出した方がいる。その方たちも一緒に、皆の意見を集めて、誰が特にというわけではないがファシリテーションをしてコミュニケーションを図った。

中塚：他のグループの話は知らない？

古里：隣の部屋にいたため、何となく笑い声は聴こえてくるが、最後の発表までわからなかった。

中塚：僕らはいろいろなグループを見ていたがおもしろかった。

春日：おもしろかった。絵を描いて必死に説明する。端のほうによくわからない絵が描かれていて、「これは何？」と聞くと、「どうしても出てこなかったため描いた」と答える子がいてかわいかった。

中塚：9時まで英語だけ。9時になって日本語使用可とすると、途端にしゃべりだす子がいたり、「あの時これが言いたかった」ということを日本語で語り合ったりした。このやり方は良かった。今後いろいろなところに広げていきたい手法。

そして最終日。少し順番を入れ替えて、まずグループディスカッションのミニ発表をやった。各グループそれぞれ個性があっておもしろい。2020年のオリンピック・パラリンピックにどう関わるか。特にSNSを使って自分たちの考えを広めていきたい、「オリンピックはただの大きな運動会だけでなく、本当はこういう考え方があるのだ」ということを自分たち、高校生ならではのネットワークで伝えていきたいとのこと。僕らではあまり思いつかないことですがだと思った。参加された皆はどう？

春日：終わった後に紙を回収していると、ディスカッションの日本語の時間が短かったのか、「もう少し話したい」と宿泊施設の廊下で結構遅く、消灯時間ぎりぎりまで盛り上がっていた。朝から講義を受け、運動もした後。しかも昨日まで会ったことのない人たちと楽しそうにしている、単純に一生懸命さがすごいと感じた。

中塚：この日、女子フロアは結構早く寝たようだ。12時頃見回りに行くと、男子フロアの一番端の部屋の電気がついていて、まさに部屋移動をしているところだった。それも筑附と筑駒と3人くらいの学校は関係なしで、もっと話をしたいという。短期間でも高校生はスッと仲間ができることが良い。

そして来田先生の出題による筆記テスト。時間は足りなかった？

古里：ギリギリでまとめられた。そこまであと何時間もというほどではなかった。あと数十分あったら良かったかな。

中塚：そして春日君が話してくれて、本当はごちそうさま係をするはずだった筑坂と中京大の子2人にクロージングスピーチをしてもらった。良いスタートを切ることができたのではないかと思う。

6. 国際ピエールドクーベルタンユースフォーラムへ向けて

1)2015年開催「第10回 国際 YF」へ向けて

中塚：今年の8月の末からスロバキアで開催される第10回ユースフォーラムに向けて選考の会議があり、3月30日付で結果が我々のところに来た。そして各学校、生徒たちに伝えられた。筑附は郵便で伝えた。自由学園はどう聞いた？

内田：個別に話をした。

中塚：筑附は始業式の日に参加生徒全員を改めて集め、どの子が行くかという話と、選ばれなかった子もこれからも一緒に勉強して行こうと話した。

そして4月19日、また自由学園と練習試合をした。古里君とは会えなかったが、もう一人の原嶋さんと会い、「何か気になることがないか」と聞くと、「連絡をどうやって取ったらよいか」とのこと。こちらは教員のネットワークで連絡し、高校生はいまふうの連絡ツールでうまくやれるだろうと考えていたが、自由学園の2人だけ違う。古里君事情を。

古里：中学生は電子機器の利用を基本的に禁止されていて、高校生は一応申請があれば携帯電話等の持ち込みも可能。しかし平日の使用は、親とのコミュニケーション以外基本的に禁止。また持ち込みは可能だがインターネットが繋がっていないため、SNS等は使用できない。

春日：ではFacebookやLINEは皆やっていない？

古里：やってはいるが週末しか見られない。あとは一部の携帯電話を持つ人がたまにする程度。



中塚：実に良い！ そんなわけで原嶋さんが心配していたため、急遽集まろうということに。この前の日曜日（4月26日）、おとといここで集まった。それがPowerPoint18の写真。茗荷谷駅前の筑波大学附属小の脇に「占春園」という小さな公園があり、そこに嘉納治五郎像がある。打ち合わせをしたのち、ここに立ち寄った。ユースフォーラム参加の7名全員が、急な連絡だったにもかかわらず集まることができた。PowerPoint18の右手前の女の子は中京大附属の子で、名古屋から引率の内藤先生とやってきた。次回からは生徒1人で来させるとのこと（注：

PowerPoint 18

最後まで引率の先生がついてきていた)。古里君と田原さんは保護者会のような（笑）。真ん中に帝京高校の池田君がいる。彼は15時になっても来ないため電話をしたら「今日あるのですか?! いま家なのですけど…」と。清瀬の自宅からダッシュで来た。

この後、6月7日と28日にまた集まって打ち合わせをすることになっている。お互いの学校のことを知るのも大切だしすごく良い環境なので、次はぜひ自由学園で準備させたい。

どんな準備が必要か英文になっている。これは前回、前々回と基本的に変わらないが、アートパフォーマンスは今回やり方がずいぶん変わるようだ。

2)2021年開催「第13回 国際YF」の日本開催へ向けて

中塚：最後に今後の見通し。今回、国内ユースフォーラムから国際ユースフォーラムへという流れが初めてでき、今後ともいろいろな組織と連携しながらこのようにやっていきたい。1つのターゲット年が2020年の東京オリンピックの翌年。奇数年に国際ユースフォーラムはあるため2021年。そのユースフォーラムは日本で開催したい。開催できるような準備を少しずつしていきたい。その時には皆川や古里が中心的なファシリテーターとして活躍してくれるのではと期待している。

おまけで今度5月6日にグラウンドではサッカー、体育館ではフットサルをやるが、その前でちょっとしたワークショップをやろうと企んでいる。サロンの人にはまた連絡する。おもしろい展開になると思う。

全体を通して意見や感想、質問を。今日のエンディングは小池君にエンディングスピーチをしてもらいたい。

長野：ユースとはどの年齢を指す？

中塚：16～18歳？

田原：高校生世代で、だいたい16～17歳。

長野：オリンピック教育という観点で、ここでは中学・大学生は対象外？

田原：これは高校生中心。ヨーロッパの学校は18歳から大学に行くところもあるため、大学生は除くということでこの年齢になっている。

中塚：次回のユースフォーラムは参加国に今まで参加しなかったところも出てくると聞いたが。ラテンアメリカの。

田原：若干、新しいところも入ってくる。

皆川：ケニアも5人になると聞いた。

中塚：誰に聞いたの？

皆川：Nickに。

参加者：サッカーとかに例えるとトップの高校生で日本一になるような子を対象に、勝つだけが目的でないような方向の話は？

中塚：オリンピズムの教育はオリンピック人に対しても少しづつなされている。

参加者：勝利至上主義でないような？

田原：JOCの事業広報部などではそのような方針でオリンピックについて伝えている。例えばオリンピック研修会も年に1回行っている。これは、オリンピックに出場した選手を対象に任意参加で、JOCのオリンピックムーブメント事業に関わって行こうとする人に、オリンピックの理念や価値などを知ってもらい、オリンピック間のコミュニケーションを促進することを目的に実施している。

この国際クーベルタンユースフォーラムは勝利至上主義と全く違うコンセプトで行われていて、中にはスポーツが優秀な生徒もいるが、自分で努力して精一杯やることに重きを置いている。

中塚：だからおもしろいと思う。

古里：楽しみにしている。

田原：いろいろな初体験があると思う。予測しなかったことがたくさん起こるだろうが、そういう中でいかにして協力したり、困っている人がいたら助け合ったりを肌で体験しながら生活する一週間になるだろう。

松岡：勝利至上主義とは違うと言いつつ、国内ユースフォーラムから国際ユースフォーラムへの生徒の選抜基準がある。今回のスポーツテストやディスカッションが検査項目だろうが、可能な範囲でどんなことをどんなふうに見ているのか聞きたい。それと国際ユースフォーラムのメダルとリンクするのかを知りたい。

田原：国内ユースフォーラムは国際ユースフォーラムをモデルにして国内で行われた。クーベルタンの思想としてエクセレンスがあるため、より良いもの、より高いものを目指していく思想がある。だからといって良い結果を出す、優秀な結果を出す生徒だけが優れているという考え方ではなく、より高いものを目指して努力・協力する過程で人間的な成長をしていく点に着目している。そのため上を目指さないというわけではなく、上を目指していく中でいかに成長していけるかというプロセスを大事にしている。結果だけが評価されることではない。

松岡：議論の中にも先生が入られて、具体的に言えば何を見ている？

田原：グループディスカッションにおいては、いかに参加しているか、取り組んでいるか。国際ユースフォーラムでは最後にグループごとの発表があり、グループディスカッション担当の先生がいて、その内容のプログラミングからチェックをしている。

小池：私はここに参加しているからフォーラムのことを知れたが、世の中の99%の人は知らない。2020年あるいはそれ以降、日本ではどのような広がりを目指して展開しようとしているのか？

中塚：個人的には北海道・東北・関東・北信越…ほどの単位で、地域ごとにフォーラムをやり、その代表が国際フォーラムに行く、あるいはそこで勝ち抜いた子が、例えば筑波に集まって全国大会をやるのでも良い。ローカルなところからやりたいと思っている。ただ、「いつ、どこで」と考えると、いまどきの高校生は忙しいため共通の日程を取るの難しい。それを踏まえると東日本・西日本のくくりになるのではという気もする。

小池：参加した生徒がその体験を何年か後に振り返って、素晴らしさを語り継げるか。まさにカリキュラムがそうだと思う。こういうバリューがプラスになった、といかにして成果を出していけるかが課題なのでは。サロン 2002 の理念とこういったプログラムを支援することはとても合致している。ゆえに何年か後に振り返り、それをどのように評価するか。これだけ時間をかけて若い人たちがやった成果をどれだけアピールできるかが問われる。

『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか』を読んだが、すごく中味が濃い。嘉納治五郎だけではないが、黎明期の日本がどういうことをスポーツと対峙しながら考えてきたのかを尋ねることは大事なことだと思う。例えば英国のパブリックスクールはどんなものなのか等、未来を見るとなかなか

か奥深い歴史がある。自分は会社員でありながら週末、少年サッカーの指導をしているが、現場の指導者こそ、そういうことを知りながらやらねばならないと感じている。

安藤：体育を軍隊教育の遺産として捉える人がまだ多い印象だ。しかし嘉納治五郎の考えていた体育はそうではないことをうまくメッセージとして伝えるチャンスだと思う。それと中学の保健体育でオリンピック教育の時間があるよね？

田原：体育理論の中にある。

安藤：その中学のオリンピック教育と、このユースフォーラムがうまくリンクすることができたら、さらに発展できるのでは？ 世代は若干異なるが。

小池：自主自律が大切だということを言ったが、どのような指導法が投げかけられているかをさいたま市が年1回開催するサッカー指導者講習会で知った。今年は畑喜美夫先生が来た。畑先生が以前広島で高校総体優勝をした。普通の高校生を優勝まで導くことは簡単ではなかったが、現場力をつけるしか自分たちの力をつける道はないと、ボトムアップ理論を学んだと聞いた。実際にプレーをしている主人公たちが問題にぶつかったとき、解決していくアプローチこそ、まさに嘉納治五郎もしくはクーベルタンの目指したところではないか。このボトムアップ理論とユースフォーラムが根底では繋がっているように感じた。

中塚：ありがとうございます。では締めめのスピーチを。

小池息子：ユースフォーラムについて今日初めて詳しく聞いた。知らないところで高校生が世界中から集まり、オリンピックを通じて交流していることは、見識が広がる気がした。できれば自分の高校でも将来やってほしい。

今日はためになるお話をありがとうございました。

一堂：拍手

以上